

ルイース・ビュールンドさん

Louise Bylund



日本とスウェーデンとの国際交流の拠点となる一般財団法人スウェーデン交流センターで、3月から交流事業担当職員として勤務しているルイース・ビュールンドさん(24歳)。実は以前から当別町との関わりがあったようです。

なぜ日本(当別)へ?

両親が旅行好きで、子供の頃から日本に何度も遊びに来たことがありました。その後、日本の文化や風土、歴史などに興味を持つようになり、2010年(平成22年)に上智大学へ2年間留学し、日本語や風習など色々と勉強しました。地元ストックホルム大学を卒業後、東京の在日スウェーデン大使館で文化担当官としての研修を受けていましたが、現在、勤務しているスウェーデン交流センターで職員を募集していることを知り応募しました。勤務を始めて約1ヶ月間、仕事にも慣れてきましたが、まだ、わからないことも多く、早く一人前の仕事ができるよう頑張りたいと思います。

当別町の印象は?

風景はスウェーデンそのものです。初めて訪れた時、まるで故郷に帰ってきたかのような懐かしさを感じました。また、当別の方は優しい方が多く、一人暮らしをしていますが、ご近所の方が声をかけてくれるので、安心して生活することが出来ます。まだ、町全体の様子が分からないので、今度、自転車で巡ってみようと思います。自動車運転免許を持っていないので、買い物等はふれあいバスも利用していますよ。

音楽家を目指して

夏至祭でも必ず音色を聞く、スウェーデンの民族楽器ニッケルハルパの演奏者としても練習を重ねて頑張っています。14歳から習い始め、リスクベルマン(スウェーデンの公認民族音楽家)を目指し、時間を見つけては自宅で練習をしています。公認を受けるためには4つのテストを受ける必要があ

り、楽器の演奏技術、楽器、音楽に対する知識力も試されます。あと1ステップを残すだけ。何とか合格したいですね。実は2012年、2013年、コンサート演奏者として、昨年の夏至祭は、フォークダンスで当別町に来ていました。でも、まさか当別町で仕事をすると夢にも思っていませんでした。これも何かの縁かもしれませんね。

これからの夢は?

人との出会いを大切にして、もっと当別のことを勉強して多くの方に当別の素晴らしさを伝えてあげたいと思います。また、機会があればニッケルハルパを使った伝統音楽を披露したいですね。

気さくで笑顔が素敵なルイースさんは、日本語も堪能。初めてお会いしたとは思えないほど、楽しくお話をいただきました。当別での生活を楽しんで下さい!!

(4月11日取材)